

保幼小連携・接続推進事業 第3期（令和4・5年度）取組まとめ

—保幼小連携・接続の参考に—

子どもたちの学び・育ちが より豊かになることを願って



令和6年7月

大阪市保育・幼児教育センター

まえがき

平成 30 年度に始まった「保幼小連携・接続推進事業」も 6 年が経過しました。この間、大学教授等を招聘して「連携・接続」について学ぶ研修や、小学校を核とした「連携・接続」の在り方・進め方の研究に取り組んできました。第 1 期・2 期を終えた 7 小学校を核とする研究ブロックでは、その後も「連携・接続」の実践を続けていただいています。

また、第 3 期のブロックも令和 4・5 年の 2 年間の研究を終了し、「やって良かった」という声をたくさんいただきました。

令和 6 年 1 月に市内全小学校に実施したスタートカリキュラムについてのアンケート調査では、「スタートカリキュラムがある」と答えた学校が 21.9%で、令和元年に実施した調査の 7.7%を大きく上回る結果となりました。「スタートカリキュラムはないが、今後作成する予定である」と答えた学校が 52.1%あり、全体の 74.0%の小学校がスタートカリキュラムの作成について肯定的であると考えられます。

一方、26.0%の小学校が「スタートカリキュラムを作成する予定は今のところない」と答えており、「連携・接続」の理解と意識向上が課題であることもわかりました。

どの小学校においても、一人ひとりの子どもを大切に丁寧な教育を目指していることと思います。丁寧な教育とは、保育者や教員が子ども一人ひとりをしっかりと見つめ、子どもの思いに寄り添うことだと考えます。それは、保育・幼児教育も同じです。遊びを中心として、様々な対象と直接関わりながら総合的に学ぶ就学前教育と、各教科等の学習内容について、授業を通して学ぶ小学校との違いはあります。しかし、就学前教育施設と小学校が互いの教育を知り、円滑な接続をすることができれば、一人ひとりを大切に丁寧な教育がさらに推進されるのではないのでしょうか。

「保幼小連携・接続推進事業 第 3 期（令和 4・5 年度）取組まとめ」は、「ICT を活用した子どもたちの交流や 5 歳児と 5 年生の交流指導案の作成と実践」、「各校園所の教育課程を持ち寄り検討・作成した架け橋プログラムの活用」、「スタートカリキュラムの協働作成から活用」等、交流の充実から接続を意識した実践をまとめたものです。各校園所の「連携・接続」の取組が一層充実することを願っています。

最後になりましたが、保幼小連携・接続の研究を進めるにあたり、温かく熱心な指導を賜りました、関西国際大学 椋田善之准教授、大阪教育大学 佐久間敦史准教授、神戸女子大学 金岩俊明教授をはじめ、ご支援いただきました多くの皆様に心よりお礼申し上げます。

大阪市保育幼児教育センター
所 長 足 立 敦 彦

も く じ

まえがき	P. 1
第1章 小学校のスタートカリキュラムの作成状況調査	P. 3
第1章－1 調査内容1	
第1章－2 調査内容1の結果と分析	
第1章－3 調査内容2	
第1章－4 調査内容2の結果と分析及び当センターの事業展開	
第2章 保幼小連携・接続研修	P. 14
第2章－1 令和4年度 保幼小連携・接続研修	
1 幼児期から児童期への円滑な接続に向けて ～保育・教育の質、連携から接続へ、記録と発信の重要性～	鳴門教育大学 木下 光二 教授
2 幼児教育と小学校教育の「架け橋」を求めて ～幼児期の遊びから生まれる小学校生活科の存在～	神戸女子大学 金岩 俊明 教授
3 保幼小の連携と接続 ～文科省幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームの議論から～	鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴 学長・教授
第2章－2 令和5年度 保幼小連携・接続研修	
1 生活科でつなぐ幼児教育と小学校教育 ～生活科の実践から考える～	大阪市立菅北小学校 竹下 由希子 教諭
2 保幼小連携・接続のために大切にしたいことと取り組み	奈良教育大学 廣瀬 聡弥 教授・学長補佐
3 保幼小連携・接続 ～心の育ちについて語り合おう～	京都大学大学院 大倉 得史 教授

4 遊びや生活の基盤をつくる連携・接続について

～架け橋期の教育の充実を考えよう～

大阪総合保育大学 神長 美津子 特任教授

大阪市小学校教育研究会と大阪市保育・幼児教育センターとの連携研修

幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続

子どもの育ち・学びをつなぐ

～カギを握る管理職のマネジメント～

前大阪市保育・幼児教育センター所長

大阪市教育局委員会事務局指導部 阪口 正治 インクルーシブ教育推進担当

第3章 保幼小連携・接続研究

P. 18

第3章－1 保幼小連携・接続研究の研究概要

第3章－2 Aブロックの研究のまとめ

第3章－3 Bブロックの研究のまとめ

第3章－4 Cブロックの研究のまとめ

第4章 第3期保幼小連携・接続推進事業の成果と課題

P. 63

第1章 小学校と就学前施設との 「連携・接続」取組状況等調査 及び 「スタートカリキュラム作成」状況調査

当センターでは、平成30年度より、保育所（園）・幼稚園・認定こども園等の就学前施設と小学校をつなぐ保幼小連携・接続推進に関わる研修や研究を進めてきました。

そこで、今後の「保幼小連携・接続推進事業」を進めるに当たり、2つの調査を実施しました。1つは、第1期・第2期の保幼小連携・接続研究後の「連携・接続」の取組状況等を把握するため、第1期・第2期の研究に携わられた小学校にご協力いただき、令和5年11月に本調査を実施しました。もう1つは、「スタートカリキュラム作成」の状況を把握するため、大阪市立小学校、義務教育学校にご協力いただき、令和6年1月に本調査を実施しました。

本調査は当センターの独自調査であり、悉皆調査ではないこと等を踏まえ、これから述べる調査結果等については、あくまでも本市の「連携・接続」の傾向として捉えていただき、今後の各校園所での取組の振り返りや今後の取組に生かしていただければ幸いです。第1章では、この2つの調査結果を紹介します。

調査目的 「保幼小連携・接続推進事業」の事業展開に資する

調査内容1 第1期・第2期の保幼小連携・接続研究後の「連携・接続」の取組状況等

調査期間 令和5年11月17日～12月22日

調査対象 保幼小連携・接続研究実施小学校 第1期（4校）・第2期（3校）
計7校（回答校数7校 回答校率100%）

回答者 校長、副校長、教頭

調査内容2 「スタートカリキュラム作成」の状況

調査期間 令和6年1月24日～3月22日

調査対象 大阪市立小学校281校・義務教育学校1校
計282校（回答校数219校 回答校率77.7%）

回答者 校長、副校長、教頭

第1章－1 調査内容1

保幼小連携・接続研究後の小学校と就学前施設との「連携・接続」取組状況等調査

設問は、問1 ～ 問6 まであります。

☐ をクリックすると☑(チェック)されますので、下にスクロールしながら各設問にご回答ください。

問1	回答いただく方について、下記欄に記入してください。	
問1-1	所属校名	
問1-2	役職	
問1-3	名前	

問2	保幼小連携・接続研究に取り組まれて、どのような効果が見られましたか。(複数回答可)		
問2	☐ 就学前施設の教育内容や教育方法等の理解につながった。	☐ 就学前施設の子どもの理解につながった。	☐ 教職員間の連携が深まった。
	☐ 当該学年の教育の充実につながった。	☐ 効果は、特に見られない。	☐ その他
その他 記入欄			

問3	保幼小連携・接続研究実施後、現在も保幼小連携・接続に取り組まれていますか。	
問3	☐ 取り組んでいる→問4・5・6へ	
	☐ 取り組んでいない→理由を下記にお書きいただき、アンケートは終了となります	
取り組んでいない理由		

現在の就学前施設との「連携・接続」の取組内容について、お答えください。

問4	〈子ども同士の交流〉において 現在、どのような取組をされていますか。また、その取組をしている対象施設にチェックしてください。(複数回答可)	
	取組内容(取り組んでいることにチェックしてください)	対象施設
問4-1	☐ 1年生主催の行事や学習に、就学前施設の幼児を呼んで交流をしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問4-2	☐ 1年生以外の学年主催の行事や学習に、就学前施設の幼児を呼んで交流をしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問4-3	☐ 避難訓練や運動会、「○○フェスタ」等、学校全体で取り組む行事や学習に就学前施設の幼児を呼び、一緒に活動したり遊んだりしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問4-4	☐ 貴校の児童が就学前施設に行き、遊びを通じた交流をしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
自由 記入欄		

問5	〈教職員同士の交流〉において 現在、どのような取組をされていますか。また、その取組をしている対象施設にチェックしてください。(複数回答可)	
	取組内容(取り組んでいることにチェックしてください)	対象施設
問5-1	☐ 貴校の先生が就学前施設に行き、保育参観をしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問5-2	☐ 貴校の先生が就学前施設に行き、保育体験をしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問5-3	☐ 就学前施設の先生が貴校に来て、学習参観をしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問5-4	☐ 就学する幼児についての情報共有をしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問5-5	就学する幼児について情報共有をする際や、「連携・接続」の取組をする際に、「幼児期の ☐ 終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)の視点を意識して、幼児・児童の様子を共有している。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問5-6	☐ 子ども同士の交流に取り組む際に、就学前施設と貴校の双方が育てたい資質・能力について情報交流し計画を立てている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
自由記入欄		

問6	〈教育課程の編成〉において 現在、どのような取組をされていますか。また、その取組をしている対象施設にチェックしてください。(複数回答可)	
	取組内容(取り組んでいることにチェックしてください)	対象施設
問6-1	☐ 貴校と就学前施設が、双方の教育目標や育てたい子ども像等を共有している。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問6-2	☐ スタートカリキュラムがある。	
問6-3	☐ スタートカリキュラムの編成に関わって、就学前施設からの意見も参考にしている。	☐ 公立幼稚園 ☐ 公立保育所 ☐ 私立幼稚園 ☐ 私立保育所 ☐ 認定こども園
問6-4	☐ 小学校教育へ円滑に接続されるように、生活科を中心に、総合的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成をしている。	
問6-5	☐ 年度末等に、「連携・接続」に関わる取組や実践を振り返り、次年度の教育課程の改善につなげている。	
自由記入欄		

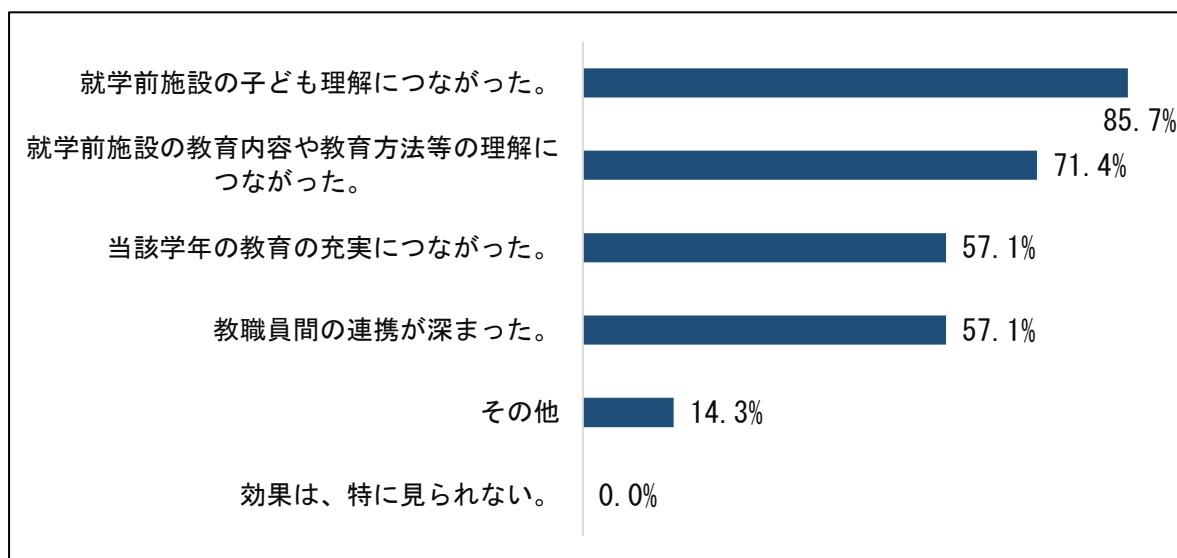
第1章－2 調査結果と分析

(1) 第1期・第2期の保幼小連携・接続研究後の「連携・接続」の取組状況等調査

問1		回答状況について						
配付数		7校		回答者の属性				
回答校数		7校		校長	副校長	教頭	それ以外	
回収率		100.0%		2	1	4	0	
問2		保幼小連携・接続研究に取り組まれて、どのような効果が見られましたか。(複数回答可)						
	就学前施設の教育内容や教育方法等の理解につながった。	就学前施設の子ども理解につながった。	教職員間の連携が深まった。	当該学年の教育の充実につながった。	効果は、特に見られない。	その他		
	5	6	4	4	0	1		
	71.4%	85.7%	57.1%	57.1%	0.0%	14.3%		
問3		保幼小連携・接続研究実施後、現在も保幼小連携・接続に取り組まれていますか。						
	取り組んでいる	取り組んでいない						
	7	0						
	100.0%	0.0%						
問4		〈子ども同士の交流〉において						
			実施の有無	対象施設【割合については複数回答可のため回答数/全回答数で表記】				
				公立幼稚園	公立保育所	私立幼稚園	私立保育所	認定こども園
1	1年生主催の行事や学習に、就学前施設の幼児を呼んで交流をしている	6	4	3	3	5	3	
		85.7%	57.1%	42.9%	42.9%	71.4%	42.9%	
2	1年生以外の学年主催の行事や学習に、就学前施設の幼児を呼んで交流をしている。	2	2	0	0	1	0	
		28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	
3	避難訓練や運動会、「〇〇フェスタ」等、学校全体で取り組む行事や学習に就学前施設の幼児を呼び、一緒に活動したり遊んだりしている。	3	2	1	0	0	0	
		42.9%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
4	貴校の児童が就学前施設に行き、遊びを通じた交流をしている。	1	1	0	0	0	0	
		14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
自由記述		・コロナ前には、様々な取り組みを通じて連携保育所・幼稚園との交流に取り組んできた。コロナの拡大により、交流そのものが制限されていたが、交流を絶やさないよう、工夫しながら現在も保幼小連携に取り組んでいる。 ・コロナ禍以前に取り組んでいたことを、今後再開したい。						
問5		〈教職員同士の交流〉において						
1	貴校の先生が就学前施設に行き、保育参観をしている。	7	6	5	5	5	5	
		100.0%	85.7%	71.4%	71.4%	71.4%	71.4%	
2	貴校の先生が就学前施設に行き、保育体験をしている	2	1	0	0	1	0	
		28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	
3	就学前施設の先生が貴校に来て、学習参観をしている。	4	4	2	1	2	2	
		57.1%	57.1%	28.6%	14.3%	28.6%	28.6%	
4	就学する幼児についての情報共有をしている。	7	6	6	7	7	7	
		100.0%	85.7%	85.7%	100.0%	100.0%	100.0%	
5	就学する幼児について情報共有をする際や、「連携・接続」の取組をする際に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)の視点を意識して、幼児・児童の様子を共有している。	2	2	2	2	2	2	
		28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	
6	子ども同士の交流に取り組む際に、就学前施設と貴校の双方が育てたい資質・能力について情報交流し計画を立てている。	3	3	1	2	2	2	
		42.9%	42.9%	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	
自由記述		・栄養教諭が園に行き、園児や保護者に小学校の給食について話をし期待がもてるようにしている。 入学予定の児童については、児童の実態に応じた適切な指導につなげるため、情報共有を確実に行うよう努めている。						

問6		〈教育課程の編成〉において					
1	貴校と就学前施設が、双方の教育目標や育てたい子ども像等を共有している。	1	1	0	0	0	0
		14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2	スタートカリキュラムがある。	3					
		42.9%					
3	スタートカリキュラムの編成に関わって、就学前施設からの意見も参考になっている。	2	2	2	2	2	2
		28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%
4	小学校教育へ円滑に接続されるように、生活科を中心に、総合的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成をしている。	5					
		71.4%					
5	年度末等に、「連携・接続」に関わる取組や実践を振り返り、次年度の教育課程の改善につなげている。	3					
		42.9%					
自由記述		・スタートカリキュラムといった明確な計画は立てていないが、就学前施設からの引継ぎをしっかりと行うことで児童理解とスムーズな接続につなげることができている。					

問2 保幼小連携・接続研究に取り組んだ効果（複数回答）



<分析>

- ・保幼小連携・接続研究に取り組んだ効果については、「就学前施設の子ども理解につながった」としている小学校は85.7%、「就学前施設の教育内容や教育方法等の理解につながった」としている小学校は71.4%と非常に高い数値である。
- ・令和元年度「小学校と就学前施設との『連携・接続』取組状況調査（調査対象：全大阪市内立小学校287校 回答校数233校 回答校率81.2%）〔以下、「令和元年度調査」と表記〕では、就学前施設と「連携・接続」の取組を進めた効果として、「就学前施設の子ども理解につながった」としている小学校は88.0%と今回とほぼ同じだったが、「就学前施設の教育内容や教育方法等の理解につながった」としている小学校は38.2%だった。

<考察>

- ・保幼小連携・接続研究に取り組んだ効果として、子ども理解とともに、教育内容や教育方法の理解につながったことを実感している小学校が多い。

問3 現在の保幼小連携・接続の取組状況



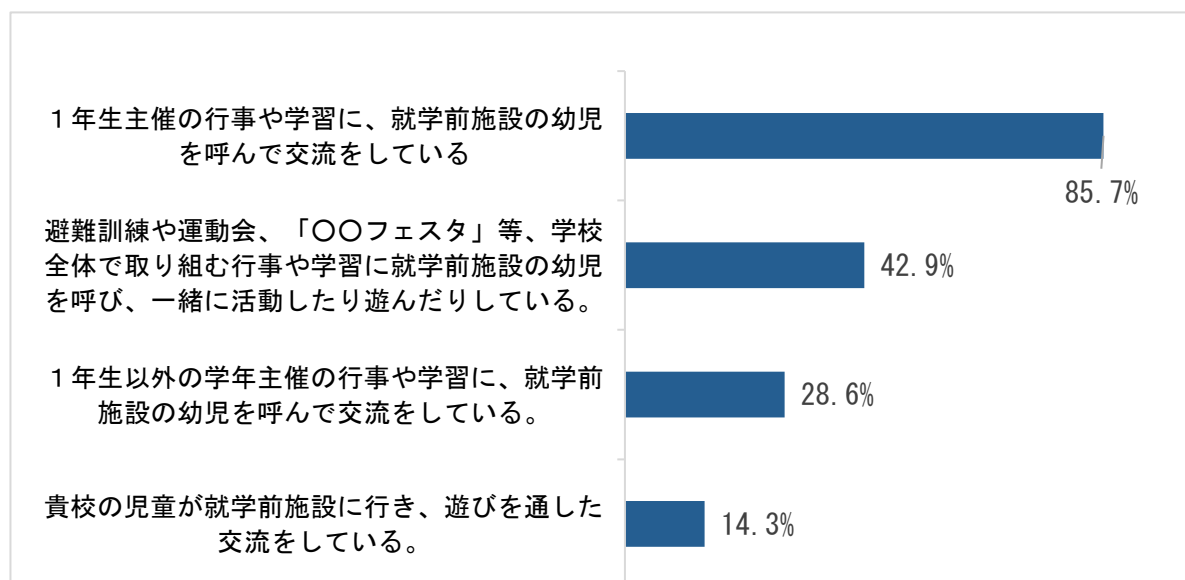
<分析>

- ・保幼小連携・接続研究実施後、現在も保幼小連携・接続に取り組んでいる小学校は100%である。

<考察>

- ・保幼小連携・接続研究に取り組んだ効果を実感して、第1期・第2期に研究に取り組んだ全ての小学校が現在も継続している。

問4 取組状況<子ども同士の交流>（複数回答）



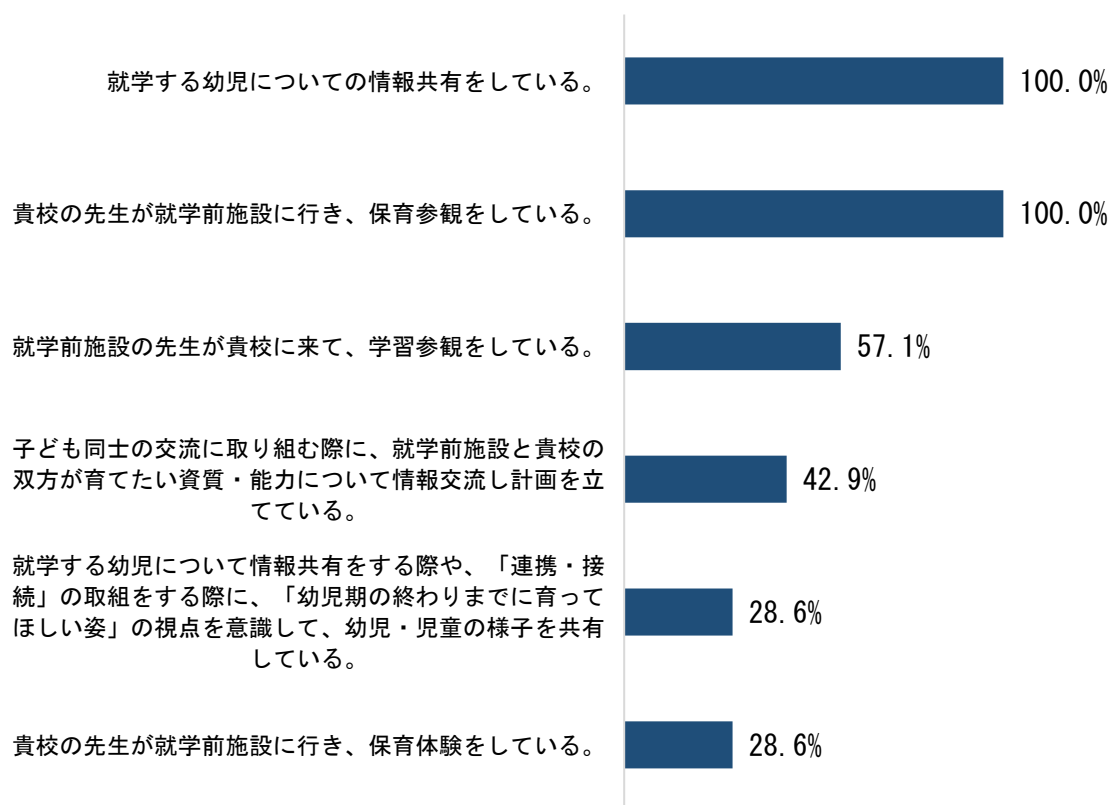
<分析>

- ・現在取り組んでいる「子ども同士の交流」については、「1年生主催の行事や学習に、就学前施設の幼児を呼んで交流している」としている小学校が85.7%で、最も多い。「令和元年度調査」と同様の傾向である。

<考察>

- ・子ども同士の交流において、「1年生との幼児との交流」に取り組んでいる小学校が多い。

問5 取組状況＜教職員同士の交流＞（複数回答）



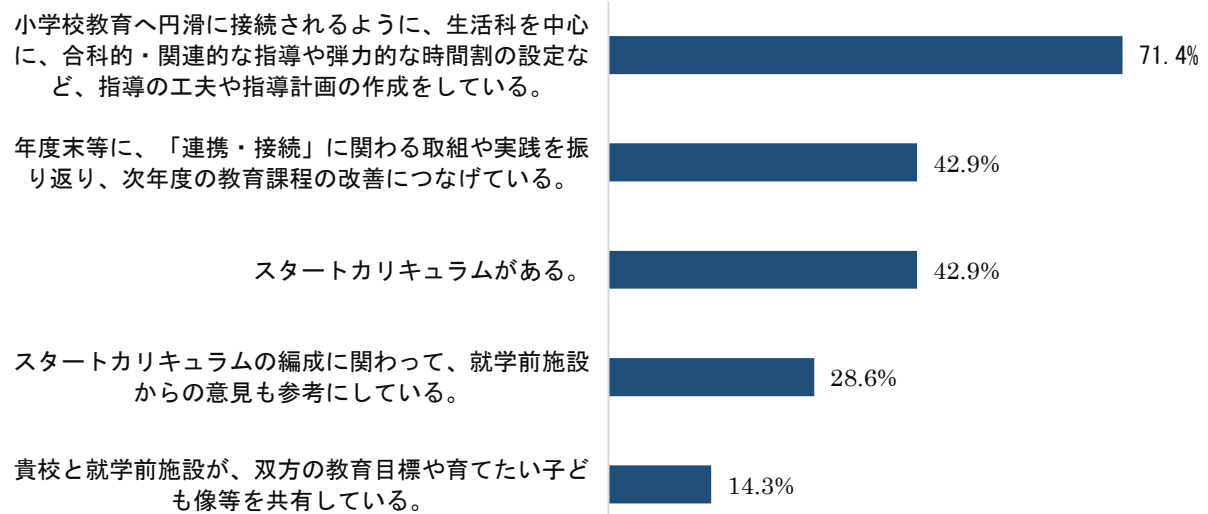
＜分析＞

- ・現在取り組んでいる「教職員同士の交流」については、「就学する幼児についての情報共有をしている」「貴校の先生が就学前施設に行き、保育参観をしている」としている小学校が100%である。
- ・「令和元年度調査」では、現在取り組んでいる「教職員同士の交流」については、「就学する幼児についての情報共有をしている」が75.1%、「貴校の先生が就学前施設に行き、保育参観をしている」が45.5%だった。

＜考察＞

- ・保幼小連携・接続研究に取り組んだ効果として、「教職員同士の交流」が活発になり、「就学する幼児についての情報共有」や「小学校の先生が就学前施設で保育参観」することを、第1期・第2期に研究に取り組んだ全ての小学校が現在も継続している。

問 6 取組状況＜教育課程の編成＞（複数回答）



＜分析＞

- ・現在取り組んでいる「教育課程の編成」については、「小学校教育へ円滑に接続されるように、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成をしている」としている小学校が 71.4%、「スタートカリキュラムがある」としている小学校が 42.9%である。
- ・「令和元年度調査」では、現在取り組んでいる「教育課程の編成」については、「小学校教育へ円滑に接続されるように、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成をしている」としている小学校が 27.5%、「スタートカリキュラムがある」としている小学校が 7.7%である。

＜考察＞

- ・第 1 期・第 2 期の保幼小連携・接続研究に取り組んだ成果として、「教育課程の編成」について、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫や、弾力的な時間割を設定した指導計画の作成をしている小学校が約 7 割となり、「令和元年度調査」と比較すると、約 3 倍となっている。また、スタートカリキュラムの作成をしている小学校が約 4 割となり、「令和元年度調査」と比較すると、約 6 倍となっている。これらのことから、「教育課程の編成」についての取組が、保幼小連携・接続研究の大きな成果として挙げられる。

第1章－3 調査内容2

「スタートカリキュラム作成」の状況調査

スタートカリキュラムについてのアンケート

☐ をクリックすると☒ (チェック)されます。設問にご回答ください。

学校名をご記入してください。

学校名	小学校・義務教育学校
-----	------------

現在の状況をご回答ください。

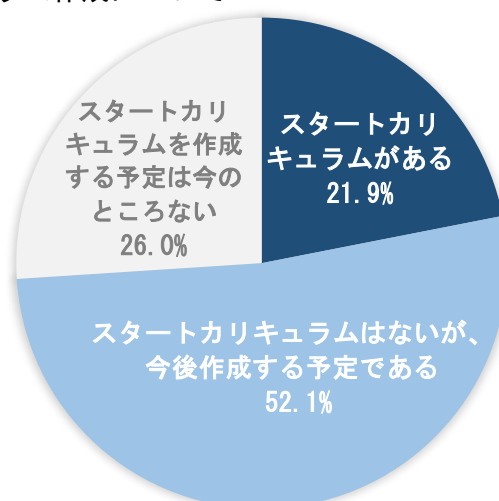
- ☐ スタートカリキュラムがある。
- ☐ スタートカリキュラムはないが、今後、作成する予定である。
- ☐ スタートカリキュラムを作成する予定は今のところない。

第1章－4 調査結果と分析及び当センターの事業展開

(1)「スタートカリキュラムの作成」の状況

令和5年度 スタートカリキュラムについてのアンケート (市内小学校・義務教育学校)			
学校数	282	回答数	219
		回答率	77.7%
問1	スタートカリキュラムがある	スタートカリキュラムはないが、 今後作成する予定である。	スタートカリキュラムを作成する 予定は今のところない。
	48	114	57
	21.9%	52.1%	26.0%

問1 スタートカリキュラム作成について



<分析>

- ・スタートカリキュラムを作成している小学校は21.9%である。また、スタートカリキュラムを今後作成する予定の小学校は、52.1%である。
- ・「令和元年度調査」では、スタートカリキュラムを作成している小学校は、7.7%であった。

<考察>

- ・スタートカリキュラムの作成をしている小学校が、「令和元年度調査」と比較すると、約3倍となっている。また、スタートカリキュラムを作成する予定の小学校が約5割であることから、スタートカリキュラム作成に関する情報が必要となると考える。

(2) 当センターの今後の事業展開（令和5年度時点）

調査結果1・2から見られる傾向を踏まえて、当センターでは次年度も「保幼小連携・接続研究」に継続して取り組み、その成果を発信するとともに、研修会での「連携・接続」の重要性や意義についての情報発信、さらに、スタートカリキュラム作成等に関わる情報の発信についても取り組んでいこうと考えています。